



軽種馬防疫協議会 ニュース速報 (号外)

2023年3月10日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

スペインにおける馬鼻肺炎の神経型の流行

2021年にバレンシア（スペイン）で行われた国際馬術大会の参加馬を中心に、欧州各地で馬鼻肺炎（EHV-1）神経型が流行したことは記憶に新しいところですが、本年2月にオリバノヴァ（スペイン）で行われた国際馬術大会（Mediterranean Equestrian Tour）の参加馬においてEHV-1の神経型の発症が確認されました。以下に、現時点までの状況について報告いたします。オリジナルのデータは、国際馬術連盟（FEI）が公開しているものであり、原文はFEIのホームページからアクセスできます。

<https://inside.fei.org/media-updates/update-confirmed-ehv-1-cases-mainland-europe>

発生状況

オリバノヴァで開催された国際馬術大会の参加馬10頭が2月21日に発熱し、隔離されました。10頭のうち4頭がEHV-1の陽性反応を示しました。3月6日時点でバレンシア大学の病院で9頭の馬が入院し、そのうち8頭に神経症状が確認されています。また、オリバノヴァの会場には103頭の競技馬が在厩し、会場は現地の獣医当局により隔離されています。会場からのウイルスの拡散を防ぐため、退厩するためには1、14、15日目のサンプルを採取し、EHV-1陰性を証明する必要があります。また、2月7日から22日まで大会に参加したすべての馬（約1000頭）は、FEIにより大会参加が制限されています。制限を解除するためには21日間の隔離を行い21日目に採材、もしくは14日間の隔離を実施し7日目と14日目に採材し、EHV-1陰性を証明する必要があります。

また、オリバノヴァからリンブルフ（オランダ）に移動した6頭のうち2頭の馬がEHV-1の陽性反応を示したため、検疫所で隔離されています。

今回のオリバノヴァとの関連は示されていませんが、リール（ベルギー）でも、1頭の馬がEHV-1陽性を示しており、陽性馬と接触した25頭の馬はオリバノヴァの例と同様にFEIにより大会参加が制限されています。

馬鼻肺炎とは？

馬鼻肺炎は、馬ヘルペスウイルス1型（EHV-1）あるいは4型（EHV-4）の感染によって引き起こされる疾病の総称です。EHV-1感染の場合には、呼吸器症状（呼吸器型）、流産あるいは生後直死（流産型）、あるいは後駆麻痺を主徴とする運動失調（神経型）の3つの臨床型が知られています。毎年、日本では、おもに若齢馬群での呼吸器型の流行が、また、生産地では流産が散発しています。本症の予防として生ワクチンの接種が実用化されています。また、神経型を発症した馬を早期に診断し、他馬から隔離することが、重要な防疫対応となります。なお、EHV-4は、原則として呼吸器型のみを引き起こします。